

会 議 録

会 議 名	第 28 回米原市男女共同参画審議会
開 催 日 時	令和 8 年 5 月 28 日（木）午後 13 時 30 分～15 時 00 分
開 催 場 所	米原市役所 本庁舎 4 階 会議室 4 B
出席者および欠席者	出席者：小沢修司委員(会長)、渡部優委員（副会長）、西村正子委員、谷本政信委員、堤辰也委員、時田智史委員、膽吹照子委員、中村真理委員、塚田多佳子委員、岸根千代美委員 欠席者：無し 米原市：角田市長(途中退席)、清水部長、澤課長、三輪課長補佐 谷川主幹、丸本主任、生田主事 米原市男女共同参画センター：鏑田所長
議 題	諮問「第 5 次米原市男女共同参画推進計画の策定について」 【報告事項】 （１）男女共同参画に関する近年の動向について （２）米原市男女共同参画に関する各種調査の調査結果について 【審議事項】 （３）第 5 次米原市男女共同参画推進計画について
資 料	当日配布資料 ・ アンケート調査における国・滋賀県比較 ・ 座席表 ・ 米原市市政ニュースナビ ・ 米原市人権総合センターSC だより（6 月号） ・ 女性のための相談ルームつくしのニュースレター 事前配布資料 ・ 次第 ・ 資料 1：米原市男女共同参画審議会規則 ・ 資料 2：男女共同参画における近年の動向について（参考資料） ・ 資料 3：米原市男女共同参画に関するアンケート調査結果報告書 ・ 資料 4：令和 8 年度スケジュール ・ 資料 5：諮問書
結 論 （決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。）	○第 5 次計画策定に向けた近年の動向およびアンケート調査結果について報告を受け、各委員から地域性や教育現場の課題等について様々な意見が出された。 ○第 5 次計画策定スケジュールについて案のとおり承認された。
審 議 経 過	議題について事務局から説明を行った後、各委員から意見等をいただいた。意見は別記のとおりである。
会議の公開・非公開の別	■公開 傍聴者：なし
会議録の開示・非開示の別	■開示 □一部開示（根拠法令等： ） □非 開 示（根拠法令等： ）
全部記録の有無	会議の全部記録 ■有 □無 録音テープ記録 □有 ■無
担 当 課	市民部 協働人権課（ 内線 4261 ）

【第 28 回審議会 会議録】

(1) 男女共同参画に係る近年の動向について

資料 2「男女共同参画における近年の動向」に関して事務局から説明を行った後、各委員から意見をいただいた。(詳細説明略)

会長

国が新しく「多様な幸せ（ウェルビーイング）」という言葉を出しました。ウェルビーイングそのものは人間の幸せを意味する言葉ですが、それをあえて男女共同参画のキーワードに据え、「多様な幸せ」と表現したことには少し驚きました。一人ひとりの多様性を尊重し、人間の幸せを画一的にではなく考えていきたいという意味合いで使われたのだろうと思います。かつて京都府立大学で福祉社会学部を創設した際、目指す福祉としてウェルフェア（福祉）ではなく、より広く人間の幸せを意味する「ウェルビーイング」を目指そうと議論した経緯があり、この言葉には昔からこだわりがありました。そのため、これを男女共同参画に使うことに少し驚いた思いがあります。国が使っているからといって、本市も必ず使わなければならないという訳ではありませんので、本市の計画においてこの言葉を使うか使わないかを含め、しっかり議論していきたいと思います。調査分析等に協力いただいているジャパン総研さん、何か意見はございますか。

事務局

ウェルビーイングという概念は、近年、国が男女共同参画に限らず、全般的に打ち出してきたものだと思っています。多様性という部分については、近年注目されるころではありましたが、今回ウェルビーイングという用語が入ってきたことには私も少し驚きました。この概念を男女共同参画に結びつける際、解釈が分かれる部分もあると思いますし、どのように定義して入れ込んでいくのかは検討が必要な、なかなか壮大な概念かなと個人的には思っております。

会長

多様な価値を尊重するというのは、これまでも男女共同参画で言われてきたことですが、それにウェルビーイングをつけた新しさがどのようなことなのかは、しっかり議論した上で考えていければと思います。

(2) 令和 7 年度男女共同参画に関する市民意識調査および自治会・事業所実態調査等の結果について

資料 3「アンケート調査結果について」に関して事務局から説明を行った後、各委員から意見をいただいた。(詳細説明略)

会長

報告書の 5 ページの「お住まいの地域（小学校区）」についてです。米原市の成り立ちでいくと以前の旧 4 町の区分けがありますが、自治会における男女共同参画の進み具合等を見るに当た

って地域差というのは出てくるのでしょうか。今後の計画を立てるにあたって、地域差を意識した方が良いのか、委員の皆様は生活されている中でどう感じておられますか。

委員

地域差はあると思います。米原駅周辺は、都会的な暮らしを望んで移住されてきている方が多い気がして、それ以外の地域とは少し異なるのではと思っています。米原駅周辺以外の地域では、土地の景観を守るために草刈りに行かなければならなかったり、お墓やお寺のお世話があたりと、その地域ならではの役割があります。

委員

同じ旧米原町内でも、米原小学校区と河南小学校区では状況が異なります。米原小学校区の方は都会に通勤されている方などが多く、字の行事などは少ないですが、山東や伊吹の方ですと、神社の行事など田舎ならではの行事がたくさんあるのではないかと思います。

委員

地域差といいますか、同じ旧町の中でも、昔からある神社やお寺がある自治会と、新しく区画整理されてできた新興住宅地で同世代が集まる自治会とでは、価値観や考え方が違うのかなと感じます。

委員

近江地区の坂田小学校区や息長小学校区に住んでいますが、昔から長く住んでいて2世代、3世代で同居されている家庭も多い一方で、新しい住宅地では若い夫婦だけといったように、家族の形が違うと思います。

会長

地域として大きく4地域ありますが、それぞれの地域の中にも、昔からある集落と新興住宅地が混在しています。そのため、地域を分けるというのは難しく、米原市全体としての傾向で捉える作り方が良いのかなという思いはいたしますが、皆さんの意見を伺えればと思います。

委員

アンケートを調査される時に、各地域にどれくらいの人数が分散されるように配られたのでしょうか。人口の数に合わせたのでしょうか。

事務局

はい、人口の割合に合わせて配布し、回収された件数が資料にお示ししているものということになります。

委員

私は伊吹地域の山の麓に住んでいますが、昔からの考え方で生活している家族もあれば、市外や県外から移住されてきた家族もあります。各家庭で家族構成も違いますし、一概に「伊吹地区の傾向はこうだ」と地域で結論づけることはできないのではないかと思います。

委員

地域でも努力はしていますが、自治会に入らない住民が増えているのも事実だと思います。そのような状況を踏まえると、地域の差を見るのではなく、米原市全体を見て「こういうまちですよ」と全体的な傾向を出す方が良いと考えます。

委員

地域ごとに分けて結果を出すと、指摘された地域の人が素直に反省して受け入れられるかというと、「良くないところをさらけ出された」という気分になってしまう懸念があります。市全体としての傾向を掴み、県や国と比べる形にするのが良いと思います。

会長

地域間の分断を煽るような意図は全くありませんが、自治会役員等の状況に地域差があるのか気になったところです。

委員

私は昨年、自治会長をしましたが、会議に代理で出てくる方も含め男性ばかりで、役員選挙等で女性の名前を投票する機会がほとんどありません。男性の方が単身赴任や亡くなられている家庭からは女性が出てこられますが、大半は男性が来ている中で、どうやって女性を選ぶのかは難しい問題です。パートナーシップ補助金を活用して女性を2人くらい登用できたかと考えたのですが、なかなか難しかったです。また、草刈りなどの準備をする際も、実務的に男性に担ってもらう方が早いという面もありました。私自身としては、女性の方にも色々担ってもらえるとよいなと思っていますが、変えていく機会を作るのがなかなか難しいと感じました。

会長

ありがとうございました。地域に関すること以外でご意見いかがでしょうか。

デートDVの認知度について、資料3の参考資料の6ページを見ると、滋賀県に比べて米原市の認知度は非常に低いことに驚きました。

委員

大津市の方ではデートDVへの取組が強化されていると聞き、こちらでも指導案やDVDを作って小中学生向けに取り組んでいます。しかし、学校の先生に理解していただくところから始まり、いざ子どもたちに伝えようとしても、子どもたちの気持ちがまだそこまで育っておらず、地域性もあって難しいという課題がありました。企業等への啓発についても、まだそこまで取り組めていないのが現状です。

事務局

学校教育の中では、中学2、3年生の教科の中で少し触れる機会があります。また、学年の中で男女交際において課題感を持つ子に対しては、性教育などと絡めながら事例を紹介して下さっている学校もあります。ただ、知識としては伝えていますが、学校によって取組に差があるのが現状かと思います。

委員

7、8年前に、国際ソロプチミストの団体の方が学校へ来られて、デートDVの出前授業をしてくださいました。保護者や子どもにとって非常に大事なことで、良い授業をしてもらったと受け止めています。そうした団体が現在も啓発活動が続けておられるのであれば、期待できるのではないかと思います。

委員

事業所実態調査についてですが、これは男女の差は関係無しで行っているのでしょうか。今まで男性社会だったものが変わっていく中で、女性経営者の方や管理職になられた女性自身が、男女平等対策などについてどう考えておられるのかを知りたいと思いました。女性の視点での回答を分ければ、変わった結果が出るのではないかと思います。

会長

事業所調査では、男女別で聞いて、それを集計することはしていないのでしょうか。

事務局

今回はそのような視点での調査はしておりません。ただ、管理職になられた女性や女性経営者の意識を知りたいというお考えは、確かにおっしゃる通りだと思います。

委員

少し前に、柏原中学校で県からの呼びかけにより、青年海外協力隊でアフリカに派遣された経験を持つ方を招いた性教育の授業がありました。言葉が通じない子どもたちにも分かりやすく性教育をされてきた方で、女性には生理があって苦しくなることや、男性には思春期に身体の変化があることなどを、男女一緒に学び合う内容でした。お互いの弱さを知り、どのように気を付ければよいかをみんなで考えることができ、非常に良い会でした。こうした教育が、ハラスメントを根絶するための根っこの部分として非常に大事だと思いますので、次期計画に性教育に関する取組を盛り込んではどうかと思いました。

また、市民意識調査の問10「日常的な家庭の仕事について、性別によって役割の分担がある」といった考え方がありますが、それにあなたは同感しますか」という設問についてですが、この聞き方であれば私自身も「同感する」と答えてしまうのではないかと思います。国の調査の設問である「夫は外で働き、妻は家事」という内容とはニュアンスが違うのではないのでしょうか。内容を考え直した方がよいのではないかと思います。

委員

確かにそうですね。国の設問と比較して違和感を感じました。

事務局

前回調査との比較を行うため、今回は前回と同じ設問内容で実施させていただいた経緯がございます。

会長

前回比較は大事ではありますが、この設問文のニュアンスであれば「同感する」という答えになってしまうことには留意が必要かもしれません。

(3) 第5次米原市男女共同参画推進計画について

資料4「令和8年度スケジュール」に関して事務局から説明を行った後、各委員から意見をいただいた。(詳細説明略)

会長

スケジュールの説明ありがとうございました。今後の審議会については、お示しいただいた流れに沿って進めていきたいと思っています。その他、全体的なことなどで意見はございますか。

委員

「多様な幸せ」という考え方が出てきたことにより、例えば、人によっては、働くことではなくて、家事をすることに幸せを感じるという人もいるかもしれないと思いました。

委員

計画策定に当たって、米原市と状況が似たような自治体の先行事例を挟み込んでいただけると有難いと思います。

委員

事例に関して、伊吹地域のことをお伝えできればと思います。先ほどの話でも自治会でなかなか参加が難しいということもありましたが、私の中では意識を持つ人を増やしていきましょう、と話をさせてもらっています。私は健康推進員でもあります。米原市では男性の健康推進員がいません。県の集まりなどでは、男性の方もたくさんいらっしゃるの、性別に関係なく、健康意識を持ってもらえるとよいと思っています。そのため、伊吹地域の組長さんに健康推進員になってもらうように声をかけたり、呼びかけてほしい旨を伝えています。

男女共同参画は性別の区別なく参加できる、ということが大事です。健康推進員に限らず、意識を持つ人を増やすことが、様々な場や会への参加につながると思います。また、つながりを増やし、みんなで参加していくような意識を持つことが大事だと思います。

会長

ありがとうございます。将来的には男女にこだわらずに、それぞれが多様性を尊重し合えるまちづくりが進んでいけば、この審議会はいらなくなってくるかもしれませんね。

その他、特にご質問がなければ、以上で本日の審議会を終了いたします。

《終了》